

【48用語】

行啓（ぎょうけい）…皇太后・皇后・皇太子などが外出すること、天皇の場

合は行幸

送達（そうたつ）…書類等を送り届けること

【48解説】

明治天皇をはじめとする各皇族の本県来訪（行幸・行啓）は、明治時代を通じて十五回に及んでいる。その目的は、殖産興業の奨励、民情の視察、政策浸透の徹底などであるが、なかでも明治六年（一八七三）六月の皇后・皇太后の富岡製糸場訪問や同十七年六月の高崎駅における鉄道開通式の実行は、日本の近代化の推進に大きな役割を果たしたといわれる。

本電報は明治二十五年五月、宮内庁から中村県知事あてに東宮殿下（皇太子）の太田金山への行啓を知らせるものである。皇太子殿下の来訪は三日間の日程で、十六日に足利経由で到着して大光院に宿泊、十七日は金山で松茸狩りと新田神社へ参拝し、金五円が下賜された。この行啓の供奉人員は、中山孝磨侍従長以下二十余名であつたとされている。